

第 1 節 営繕業務

1 営繕業務

営繕業務には、知事部局及び教育庁の依頼に基づき実施する県有建築物の新築・増改築と、県が保有する499施設、延べ床面積約2,091千㎡のうち、338施設、延べ床面積約1,657千㎡について行う維持修繕等があります。(数値は、いずれも平成21年度末現在。)

これらの工事に関する調査・設計・工事監督等を通じ、営繕課と各地域振興局建設部が連携をとりながら、安全で安心して利用できる県民共有の財産の整備を図っております。

2 重点的な取り組み

営繕工事の技術管理業務を通じて、県民共有の財産である県有建築物が、多くの県民に親しまれ活用されるよう、次のような基本事項を踏まえた取り組みを実践しております。

県民に親しまれる建築物

- ・ 街並みや周辺環境と調和した建築計画。

利用者にやさしい建築物

- ・ 地域の気候風土を踏まえ、敷地と建築物の各機能に応じた適切なバリアフリーを推進。

環境にやさしい建築物

- ・ 県有建築物の環境負荷の低減化。
- ・ 自然エネルギー(地中熱、雪冷房、太陽熱等)、雨水、地下水の利用。再生資材の活用。県産材を活用した建築物

- ・ 秋田杉に代表される県産木材を活用し、公共建築物の木造化、木質化を推進。

安全で安心して使える建築物

- ・ 構造上、防災上の安全性の他に、使用材料の安全性の確認。

広報・広聴の充実

- ・ 美の国あきたネットを活用した発信情報の充実。

県産材活用の事例

(あきた総合支援エリアかがやきの丘の技術交流センターは木造として、ホール部分は構造部材をそのまま表しています。)



あきた総合支援エリアかがやきの丘・技術交流センター ホール 内観

第 2 節 営繕関係事業

1 平成22年度営繕工事の概要と平成21年度営繕工事の事務依頼実績

平成22年度に営繕課が知事部局及び教育庁から事務の依頼を受けて実施する予定の受託事業は、延べ142件、年度総工事費約12,735百万円の見込みです。

これは、前年度(事務依頼ベース)に比べて件数で約355%、年度工事費で約125%になります。

機関名	平成22年度当初		平成21年度		対前年度比較	
	件数	工事費	件数	工事費	件数	工事費
	(件)	(千円)	(件)	(千円)	%	%
知事部局	99	5,255,684	29	4,267,968	341%	123%
教育庁	43	7,480,291	11	5,900,828	391%	127%
総計	142	12,735,975	40	10,168,796	355%	125%

22年度分には修繕工事や耐震改修等を含む

(平成22年4月現在)

2 平成22年度主要工事の概要

平成22年度に継続中又は発注予定の主な事業は次のとおりです。

北秋田地区統合高校(仮称)整備事業 建設地：北秋田市 構造規模：RC造3/0他 約16,000㎡ 工期：H20～H24	湯沢地区統合高校(仮称)整備事業 建設地：湯沢市 構造規模：RC造6/0他 約15,000㎡ 工期：H20～H24
能代地区統合高校(仮称)整備事業 建設地：能代市 構造規模：RC造4/0+木造2/0他 約13,300㎡ 工期：H23～H26、(設計H21～H22)	

(平成22年4月現在)



[完成施設の紹介] あきた総合支援エリアかがやきの丘

[建築場所] 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢地内

[竣工] 平成22年3月

[計画概要] 鉄筋コンクリート造 2階建 ほか
延べ床面積 約28,000㎡

[施設の特徴]

医療と教育の連携による総合支援の提供や、自立・共生・社会との交流などを視野に入れ、既存施設の補完や統合・整備にとどまらず、これまでにない全く新しい環境を提供することを目指して計画されました。

全ての利用者が安心して安全に利用できるよう特に配慮し、利用者のこころの拠り所となるよう明るく清潔で、そして、木材を中心とした県産材を多く活用した、やさしさとぬくもりのあるデザイン計画としています。



あきた総合支援エリアかがやきの丘 外観

3 事業紹介

(1) 湯沢地区統合高校(仮称)整備事業



外観パース

[建築場所] 湯沢市湯ノ原地内

[竣工予定] 平成23年3月

[計画概要] 鉄筋コンクリート造 6階建 ほか 延べ床面積計 約 15,000㎡

[施設の特徴]

湯沢北高校と湯沢商工高校が発展的に統合し、普通科・総合ビジネス科・工業技術科から構成される新統合高校は、長い間、地域に根付いた2校の伝統を引き継ぎつつ、特色ある教育施設としてふさわしい校舎を実現するため「緑豊かな学舎の再生」、「時代の変化に追従できる施設」、「生徒にやさしい施設」、「総合的に地域の核になる施設」を基本コンセプトに計画されました。

校舎は、周辺施設及び前面道路からの景観に配慮し、周辺環境にあまり圧迫感を与えないよう、道路に面する壁面の長さをできるだけ抑えると共に、校門から生徒昇降口までを直線的に、かつ見通しの良い位置に配置し、校舎としての正面性を強調し、外部に対しても開放感が感じられる配置計画としています。

(2) 北秋田地区統合高校(仮称)整備事業



外観パース

[建築場所] 北秋田市伊勢町地内

[竣工予定] 平成23年3月

[計画概要] 鉄筋コンクリート造 3階建 ほか 延べ床面積計 約 17,000㎡

[施設の特徴]

北秋田地区4校の統合に伴い整備される校舎は、「歴史と伝統を引き継いだ学校」、「地域文化の中心となる夢のある学校」、「未来の農林業のスペシャリストを育てる学校」、「気候・風土を配慮した学校」を基本コンセプトに計画されました。

校舎は口の字形状とし、管理棟・教室棟・特別教室棟・講堂棟がつながり、その形はあたかも4つの学校が合体したバランスの良い四角を形成し、統合校を象徴した形状としています。

また、昇降口前のアプローチには、伊勢堂岱遺跡で見つかったストーンサークルをイメージし、大講堂のトップライト屋根は綴子大太鼓をイメージし、規則正しく配列された柱型をアクセントとすることによりリズムカルなデザイン計画としています。